

はんしん2000

写真・文 山田哲也

28

大手繊維メーカー「ユニチカ」の歩みは、1888(明治22)年、「尼崎紡績」の創業に始まる。その尼崎紡績本社事務所の建物を修復して使っているのが、ユニチカ記念館(尼崎市東本町1の50)。市内に現存する最も古い洋風建築(2階建て)で、1900年の完成。外壁の赤レンガ外周番「06」に編入される起源を

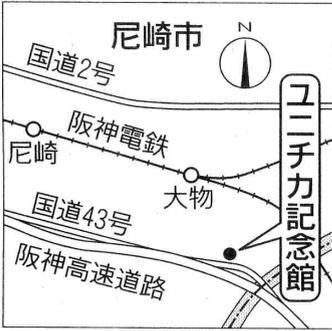
ユニチカ記念館

はイギリスから輸入したものだ。ユニチカは、尼崎の近代工業の先駆けで、最盛期には敷地が約6万2千坪、従業員は4000人を超えた。工場内には女子寮(現・小田南公園)や社宅(現・梶立尼崎病院)もあった。明治時代、西宮市鳴尾地区は綿の一大産地だった。同社は、そこで採れた「坂上綿」を使っていた。

記念館には、尼崎紡績の創立願書から、幾度の合併で大日本紡績(1918年)、ニチボー(64年)、ユニチカ(69年)と社名が変わった会社の歩みを示す資料が展示されている。

ユニチカが大阪に移った現在も、ユニチカの登記上の本社は、同記念館の住所になっている。

阪神電鉄・大物駅下車、南東へ徒歩7分。開館日は毎週水曜日、午前10時～午後3時まで。無料。問い合わせは同館(06・6481・0525)。



尼崎に残る最も古い洋風建築



ニチボー員塚を母体として、東京五輪女子バレーで優勝した「東洋の魔女」の資料も展示している